

オンラインセミナー

江戸東京への舟運

～古文書でたどる酢の軌跡～

開催しました



今回のオンラインセミナーでは東北学院大学の齋藤先生に、江戸時代後期に台頭してきた、尾州廻船を含む新興海運勢力と、それにより再編された全国物流網、江戸の舟運を担った船の種類についてお話しいただき、ミツカン水の文化センターの設立にもつながる、ミツカングループの創業期に酢が尾張半田から江戸に運ばれた背景を解説いただきました。

また、一般財団法人招鶴亭文庫が所蔵する「中埜家とすしや与兵衛との書簡」や「関東大震災発生時の様子を報告する葉書」などの古文書をひも解き、酢が江戸の食文化に貢献した姿や、災害時にも船で酢を江戸に運びつづけた歴史を感じられる内容でした。

オンラインセミナーの後には、齋藤先生と希望者によるオンライン交流会を実施しました。短い時間でしたが、齋藤先生との会話を楽しんでもいただき、遠方からの参加者を含め、オンラインならではの交流の機会となりました。

今回は、初めての“オンラインセミナー”開催となりましたが、全国各地より多くの方にご参加いただくことができました。「江戸東京への舟運～古文書でたどる酢の軌跡～」の講義動画や講義資料は、Webサイトからご覧いただけます。

当日ご参加いただけなかった方も、もう一度視聴されたい方も、ぜひご覧ください！

http://www.mizu.gr.jp/news/201128_report.html

(2020年12月8日のお知らせに掲載しております)

日時：2020年11月28日(土)

13:30～16:00

会場：オンライン (Zoomにて配信)

参加者数：オンライン講義 73名

オンライン交流会 7名

講師：齋藤善之(さいとう よしゆき)さん

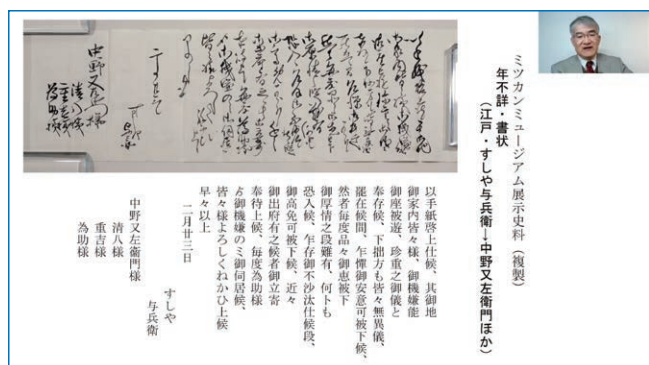
東北学院大学教授

主催：ミツカン水の文化センター

共催：一般財団法人 招鶴亭文庫



講師を務めた東北学院大学教授の齋藤善之さん



齋藤先生は古文書などを用いて講義

機関誌『水の文化』66号に関する訂正とお詫び

『水の文化』66号の記事について誤記がありましたので、お知らせいたします。

p26『農具便利論』の説明文

誤 大川永常著

正 大蔵永常著

すでにお手元に届いている読者の皆さまに訂正してお詫びいたします。

機関誌『水の文化』制作について

ミツカン水の文化センターで発行しております機関誌『水の文化』67号につきましては、感染防止対策を徹底しつつ取材活動を行いました。

取材先の皆さまには、顔写真撮影に關してマスクを外していただくなどのご協力をお願いいたしました。この場をお借りし

て御礼申し上げます。

また、ご好評いただいております連載「食の風土記」「Go! Go! 109水系」はやむを得ず休載といたしました。

68号以降も感染防止対策を徹底したうえで、機関誌『水の文化』を制作してまいります。

水の文化 Information

■「水の文化」に関する情報をお寄せください

本誌「水の文化」では、今後も引き続き「人と水のかかわり」に焦点をあてた活動や調査・研究などを紹介していきます。

ユニークな水の文化楽習活動や、「水の文化」にかかわる地域に根ざした調査や研究がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

■ホームページのお問い合わせ欄をご利用ください

<http://www.mizu.gr.jp/>

■水の文化 バックナンバーをホームページで

本誌はホームページからPDFファイルとしてダウンロードできるほか、冊子をご希望の方はホームページの「最新号のお申し込みボタン」からお申し込みいただけます。どうぞご利用ください。

■「水にかかわる生活意識調査」ホームページで公開中

20年以上にわたり、ほぼ同じ内容で日常生活と水とのかかわりや意識、水と文化に関する生活意識調査を実施しています。結果はすべて公開していますので、ぜひご利用ください。

皆さまの感想を お待ちしております！

『水の文化』67号について、アンケートにご協力ください。
今後の機関誌をよりよくしていくための参考にさせていただきます。

◆アンケートへの回答はこちらから。

<http://www.mizu.gr.jp/form67.html>



※アンケート用紙をお持ちの方は、FAXまたはメールにて
下記へご返信いただく形でも結構です。

FAX：03-3568-4025

メールアドレス：mizubun@mizu.gr.jp

編集後記

取材後、東川のやる気や活力はどこから湧き出ているのか
と思いを巡らせた。移住者が多いこと人口が増えることは、
魅力ある「まちづくり」の結果ではあるが、これは目的で
はないのだろう。彼らにとって、この地の住民に限らない
社会全体や、30年50年先の次世代に継げられる価値の創造
意欲こそが原動力であり、このエモーショナルなキャピタル
は、水とともに東川の大切な資産だと思う。(五)

長年、アドバイザーの鳥越先生から、面白い町があるよと
紹介されていた東川町。「水」とどまらぬ魅力満載の秘訣
は、役場の方々が住民の幸せを第一に考えていることに端
を発する、信頼感の連鎖だと感じた。そして信頼感あるコ
ミュニティは災害時の備えともなる利点も。移住なんて考
えたこともなかったが、終の棲家について真剣に考えてみ
ようかな、と感化されてしまった。(松)

移住生活の経験があります。残念ながらその土地からは引
越してしまいましたが、東川町のような温かい土地だつ
たことを思い出しました。現在の住まいは東京ですが、東
川へ移住した方々のインタビュー記事を読んだ時、こんな
場所ですらしてみたいなと羨ましく、また過去の移住生活
が懐かしく思い出されました。(飯)

2012年に「世界のこどもの椅子展」という展覧会に関
わった。19世紀から近年までにデザインされた子ども用の
椅子を集めた展覧会だが、その企画の目玉として「君の椅
子」の展示をした。その期間中、東川町の役場の方が足を
運んでくれて、「水」や「写真」など東川町の魅力をアピ
ルしていたのが印象に残っている。今回の記事を読むと、
そのフットワークの軽さや熱心さを思い出す。(力)

東川町滞在中のわずかな空き時間。59号の取材で習い覚え
た日本古来の毛鉤釣り「テンカラ」を忠別川でも試みよう
と、地元の人に釣り場を尋ねた。「そのへんで釣れますよ」
と言う。耳を疑った。町の中心部なのに？半信半疑で川に
毛鉤を投げると「バシャ」と魚が食いついた。ニジマスだ！
水面を割って宙を舞い、水中に潜っては魚体をくねらせる。
「こんな町なかで!？」と驚くしかなかった。(前)

ミツカン水の文化センター機関誌

水の文化 第67号

ホームページアドレス

<http://www.mizu.gr.jp/>

発行日

2021年(令和3年)2月初版1刷

企画協力 (氏名50音順)

沖 大幹 東京大学大学院工学系研究科教授
古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文献研究会
陣内秀信 法政大学名誉教授
鳥越皓之 大手前大学学長
中庭光彦 多摩大学教授

制作

浦本五郎
松本裕佳
久保田瑞季
青木広実
小林夕夏
久保悦史
飯野真奈実

編集製作

前川太一郎 編集
中野公力 デザイン・撮影
蔵田 豊 デザイン

執筆

佐々木 聖
手塚ひとみ
開 洋美
前川太一郎

撮影

葛西亜理沙
川本聖哉
藤牧徹也

印刷

中埜総合印刷株式会社

発行

ミツカン水の文化センター

〒104-0033 東京都中央区新川 1-22-15 茅場町中埜ビル

株式会社 Mizkan Partners

Tel. 03 (3555) 2607 Fax. 03 (3297) 8578

※禁無断転載複写転売